

# 青 山 小 だ よ り

平成29年 11月1日  
港区立青山小学校 NO.7  
校長 下城 英和

## 話を「聴く」力

校長 下城英和

菊薫る霜月となりました。学校では、来月の展覧会に向けた作品制作に子供たちは取り組んでいます。一人ひとり、自分だけの作品が仕上げられることと思います。各御家庭でも子供たちの頑張りを見守っていただければと思います。

語呂合わせではありませんが、菊（きく）の季節ということで、今月は「聞く・聴く」ということについて話をしたいと思います。いろいろな捉え方がありますが、二つの違いは、意識の違いによって使い分けられるのだそうです。

- ・聞くは、「物音を聞く」「話し声が聞こえる」のように、音や声などを自然に耳に入ってくること。
- ・聴くは、「音楽を聴く」「講義を聴く」「国民の声を聴く」のように、積極的に耳を傾けることを表すこと。

この定義を基にすると、生活全般においては、「聞く」ことができないと生きていく時に不便なことが多くなり、たいへんです。しかし、「聞く」ことを改善してくれる物が周囲にたくさんあります。一方、「聴く」と言うことができなくとも、さほど支障はないかもしれませんが、社会を生きていく上では特にたいへんです。それは自分自身が取り組まなければ変わらないからです。

これから時代を生きていく子供たちには、変化に向き合い、他者と協働して課題を解決することが求められています。他者との協働していく上では、他者とのコミュニケーションは欠かせません。「聴く」力が身に付いていないと他者と議論できる力が欠如してしまい、ディスカッションができない（成り立たない）こととなります。相手の話や表現を聴いたりする態度を身に付けることこそがコミュニケーション能力ということになるのです。

また、「聴く」ことは他者の思考に耳を傾け、自分で咀嚼し、判断すること、こうした力の育成にもつながります。これができていれば、他者の論理的思考も理解することができ、学ぶ力もが上がるようになっていくと言われています。

青山小の子供たちの様子を見ると、全校朝会や授業など、「聴く」ことができているようにも見えますが十分ではない様子は散見されます。何時までたっても私語が止まず「聴く」姿勢が取れない、表面上は聴いているようであっても意識が欠如しているため「聴く」ことができず、同じことを繰り返し質問する。これらの現状は改善していかなければなりません。時間はかかりますが、学校でも継続して指導にあたっていきます。各御家庭でも、学校生活全般で「聴く」ことがきちんとできているか、お子さんと話をさせていただきたいと思います。

人の話を「聴く」。あまりにも当たり前のように、実はなかなか、大人でさえも、できていないことです。一朝一夕にはいきませんが、この大切さを改めて捉え直し、大人が子供たちに範を示し、「聴く」ことの意義を子供たちに理解させていかなければならないと考える今日この頃です。